

なのか。これ以上オーバーする可能性はあるのか。傍聴していると、額が違ったり内容が違ったりするが、そのような要望は出さなかったのか。前と違う結果が出てきているが、どのように検討したのか。

【回答】小松主査：7億2,720万については、このエリアで温浴施設をやる場合の積算であり調査結果となっている。整備費が確定ということではない。こちらで示したものの以外についてはサウンディング調査で聞いており、施設規模については検討委員会でも詰めていきたいと思う。前は利用者人口を基に計算をした。今回は改めて商圈人口を基に計算した。

【回答】肥後副参事：今までは文献を調査して、その結果から試算をした。今回は、専門のコンサルが知見を用いて調査したのでより精度が高まったと認識している。

●石井副管理者：前の資料の調査費用は一切かけていないということで良いか。前回調査との違いを、比較検討できるように示してもらいたい。

正副の場で問題点を発見するのではなく、疑問には必ず答えてほしい。説明が前回と違う。その差も示さないで説明されても、理解しかねるので的確に説明してほしい。副管理者の立場は、市民への説明責任は議員よりあると思っている。この場でできる限り聞いておきたい。

【回答】肥後副参事：委託には出していない。

本体事業のアドバイザー契約で、資料の文献や収集はお願いしている。専門業者が委託を受けまとめたものではなく、あくまで文献の中で調査したものであった。

【回答】黒澤課長：参考文献より算出していたが、今回はサウンディング調査の報告を受けたものである。

●石井副管理者：温浴施設の総経費には土地も入っているのか。余熱利用施設を含む場合と含まない場合の金額は、別に出すべきではないか。運営や建物の償却は考えているのか。土地も含み、金額を出したうえで説明しないと総事業費が分からない。

【回答】小松主査：施設整備基本計画の中で余熱利用施設を含むものとして計画している。運営はDBOで、償却は考えていない計算である。

●管理者：土地はこれから鑑定をかけ、大ざっぱなことをいうと独り歩きして